

「中学生による未来会議」

1 班 区の名称「夢中区」

理想とする区のイメージ：「誰もが夢中になれる区」

自然など地域の特色を活かした環境整備を行い、仕事や趣味など様々なことに夢中になることができ、充実した毎日を送ることが出来るまち。また、観光業を発展させることで、区内の人も区外の人も夢中になれるまち。

10 年後の目標 「観光業の発展、区民のつながりを広げる」

★目標に向けて必要なこと

- ・区民みんながキャストとなり、「おもてなし」の心を持つ
- ・一人ひとりが役割を分担する（自分ができることをできるときに）
- ・住民の交流の場をつくる
- ・自分達の区を知る
- ・区外の人に興味を持つような七不思議をつくり、「区の魅力」を区内外に発信する。

★自分自身に取り組めること

（長嶺中 3 年）

- ・自分をよく知り、周りをよく知り、たくさんの興味を大切にする

（東野中 2 年）

- ・今の区を細かい所まで学ぶ
- ・自分も区民である自覚を持ち意識を高める

（錦ヶ丘中 2 年）

- ・区をきれいにする。区を知りつくす

（湖東中 2 年）

- ・自分の興味がわいたことは、とことん追求して、様々なことを知り、挑戦していく

「中学生による未来会議」

2班 区の名称「ねるっ区」

目指す区の姿 「安心して落ち着ける区」

自分の家のように安心して寝ることが出来る。どこでも寝ることができる安全できれいなまち。区民全員に思いやりがあり、協力することができる。

「誰もが、自分の家のようにいつでもどこでも安らげるまち、帰ってきたいと思えるまち」

10年後の目標 「みんなで景観美化」

★目標達成に必要なこと

- ①地域のコミュニケーション強化（多世代の人々が交流する機会を設ける）
 - ・世代を超えた交流を図るため、定期的に美化活動等を開催する。
 - ・まちがきれいであれば、気持ちがいいし、江津湖などの自然や水を守る活動を行う。
 - ・高齢者の見守りパトロールを実施する。
 - ・美味しいものがある店、行ってみたいと思える場所をつくる。
- ②区民の協力体制強化
 - ・美化活動等への参加促進策として、世代対抗のコンテスト形式を導入する。また、上位入賞者（チーム）へは表彰を行い、賞品は、その地域に還元できるものとする。（例えば、地域に必要な施設設置のための助成金の一部など）
 - ・美化活動終了後に世代交流を目的とした打ち上げを開催する。
- ③その他 具体的な整備として
 - ・東バイパス（国道 57 号線）の中央分離帯や街路樹の整備（景観がよくない）
 - ・横断歩道に点字ブロックを設置する。

★自分自身が取り組めること

（桜木中 2 年）

- ・登下校中のあいさつ、ごみを拾う

（湖東中 2 年）

- ・地域ボランティアに積極的に参加する

（東野中 2 年）

- ・地域の高齢者の家に行き、交流を深める

（西原中 2 年）

- ・同じマンションに住んでいる高齢者に最近の様子などを聞いてみる

「中学生による未来会議」

3 班 区の名称「みんなが交わる維管束区（いかんそく）」

理想とする区のイメージ：「みんなが集まり交われる区」

地域との「交流」を大事に、より多くの話をして、みんなが笑顔になるまち。
また、環境を充実させて、住民だけでなく外部から来る方々にも「このまちは
すごい」、「行ってみたい」と思われるまち。

10 年後の目標

「市民一人一人がおもいやり」

～行ってみたい、住みたい、ほかにはない便利なまち～

★目標に向けて必要なこと

- ・まず、地域の声、市民の声を聞くことが大事！

【交流（ソフト面）】

- ・みんなが来やすい祭り、イベントを開催
対象者を広く（子ども、大人、お年寄り、外国人など）
- ・みんなで一緒に街のゴミ拾い

【環境整備（ハード面）】

- ・道路、スロープ
- ・公園などの施設
- ・街灯
- ・観光スポット

ソフト、ハードの両面に取り組んでいくことで、おもいやりにつながっていく。

★自分自身が取り組めること

（長嶺中 3 年）

- ・1 人の市民として声をあげる

（桜木中 2 年）

- ・市民であることを理解し、地域のイベントに参加する

（西原中 2 年）

- ・自分自身が地域の人に思いやりをもって生活したい